

守れ 子どもの睡眠 (1)

2012年9月

子どもがスヤスヤ眠る姿は実に愛らしいものです。でも、睡眠関連疾患に冒されたらどうでしょう。いびきや無呼吸、夜驚、歯ぎしり、寝言、夢遊病、てんかん発作などによって可愛い寝姿が一転してしまいます。まずはいびき無呼吸。およそ一歳までは乳幼児突然死症候群として幼い命を脅かし、その後二次障害として、低身長で肥満、漏斗胸（胸に凹み）、アデノイド顔貌（間延びした顔、いつも口を開け、高く狭い口蓋、低位舌）といった醜形の原因、注意拡散多動性障害（ADHD）や学習障害（LD）といった行動異常の原因になります。

この時期の治療は耳鼻科でのアデノイドや扁桃の手術に頼るしかありません。手術の時期を逸すると、二次障害が現れてしまいますので、遅くとも小学校の中学年までには手術をしてもらうのがいいと思われます。さもないと、形成外科で漏斗胸の手術（胸を切って胸骨を前後ひっくり返すラビッチ変法など）や口腔外科でアデノイド顔貌の手術（上顎と下顎を切離して、位置を変えて再固定する上下顎移動術など）といった大きな手術が必要となってしまいます。

アデノイドや扁桃の手術は早ければ早いほどいいのですが、若年ほど術後管理が難しく、術後合併症の危険が増します。また、中には手術をしなくても自然消退する場合がありますので、できるだけ成長を待ってから手術を行うこともあります。その場合は、低身長肥満、漏斗胸、アデノイド顔貌、学校での異常行動などの観察を怠りません。